

既存添加物名簿収載品目リスト

番号	品名		簡略名又は類別名	基原・製法・本質	用途	備考
	名称	別名				
1	アウレオバシジウム培養液 (アウレオバシジウム培養液から得られた、β-1,3-1,6-グルカンを主成分とするものをいう。)			黒酵母 (<i>Aureobasidium pullulans</i>) の培養液より、分離して得られたものである。主成分はβ-1,3-1,6-グルカンである。	増粘安定剤	<i>Aureobasidium cultured solution</i>
2	アガラーゼ			※	酵素	Agarase
3	アクチニジン			※	酵素	Actinidin
4	アグロバクテリウムスクシノグリカン (アグロバクテリウムの培養液から得られた、クシノグリカンを主成分とするものをいう。)		スクシノグリカン	細菌 (<i>Agrobacterium tumefaciens</i>) の培養液より、分離して得られた多糖類である。主成分はスクシノグリカンである。	増粘安定剤	<i>Agrobacterium succinoglycan</i>
5	アシラーゼ			※	酵素	Acylase
6	アスコルビン酸オキシダーゼ	アスコルベートオキシダーゼ ビタミンCオキシダーゼ	オキシダーゼ V.Cオキシダーゼ	※	酵素	Ascorbate Oxidase
7	L-アスパラギン		アスパラギン	※	調味料 強化剤	L-Asparagine
8	L-アスパラギン酸		アスパラギン酸	※	調味料	L-Aspartic Acid
9	アスペルギルスステレウス糖たん白質 (アスペルギルスステレウスの培養液から得られた、糖タンパク質を主成分とするものをいう。)	ムタステイン		糸状菌 (<i>Aspergillus terreus</i>) によるブドウ糖、澱粉及び大豆ミールの発酵培養液を除菌し、硫酸アンモニウムにより分画した後、脱塩して得られたものである。主成分は糖タンパク質である。	製造用剤	<i>Aspergillus terreus glycoprotein</i>
10	α-アセトラクタートデカルボキシラーゼ		リアーゼ	※	酵素	α-Acetolactate Decarboxylase
11	5'-アデニル酸	アデノシン5'-リン酸	5'-AMP	※	強化剤	5'-Adenylic Acid
12	アナトー色素 (ペニノキの種子の被覆物から得られた、ノルビキシン及びビキシンを主成分とするものをいう。)		アナトー カロチノイド カロチノイド色素 カロチノイド カロチノイド色素	※	着色料	Annatto Extract
13	アマシードガム (アマの種子から得られた、多糖類を主成分とするものをいう。)		アマシード	アマ科アマ (<i>Linum usitatissimum</i> LINNE) の種子の胚乳部分より、室温時~温時水又は含水アルコールで抽出して得られたものである。主成分は多糖類である。	増粘安定剤	Linseed gum
14	アミノペプチダーゼ			※	酵素	Aminopeptidase
15	α-アミラーゼ	液化アミラーゼ G3分解酵素	アミラーゼ カルボヒドラーゼ	※	酵素	α-Amylase
16	β-アミラーゼ		アミラーゼ カルボヒドラーゼ	※	酵素	β-Amylase
17	L-アラニン		アラニン	※	調味料 強化剤	L-Alanine
18	アラビアガム (アカシアの分泌液から得られた、多糖類を主成分とするものをいう。)	アカシアガム	アカシア	※	増粘安定剤	Gum Arabic Arabic Gum Acacia Gum
19	アラビノガラクトラン			マツ科セイヨウカラマツ (<i>Larix occidentalis</i> NUTT.) 又はその他同属植物の根又は幹より、室温時水で抽出して得られたものである。成分は多糖類 (構成糖はガラクトース、アラビノース等) である。	増粘安定剤	Arabino galactan
20	L-アラビノース		アラビノース	※	甘味料	L-Arabinose
21	L-アルギニン		アルギニン	※	調味料 強化剤	L-Arginine
22	アルギン酸	昆布類粘質物		※	増粘安定剤	Alginate Acid
23	アルギン酸リアーゼ			※	酵素	Alginate Lyase
24	アルミニウム	アルミ末		27Al	着色料	Aluminium
25	アントシアナーゼ			※	酵素	Anthocyanase
26	イソアミラーゼ	枝切り酵素		※	酵素	Isoamylase
27	イソアルファ-苦味酸 (ホップの花から得られた、イソフムロン類を主成分とするものをいう。)	イソアルファ-酸	ホップ	クワ科ホップ (<i>Humulus lupulus</i> LINNE) の雌花より、水、二酸化炭素又は有機溶剤で抽出し、熱処理して得られたものである。主成分はイソフムロン類である。	苦味料等	Iso-α-bitter acid
28	イソマルトデキストラナーゼ			細菌 (<i>Arthroacter</i>) の培養液より、水で抽出して得られたものである。	酵素	Isomaltodextranase
29	イナワラ灰抽出物 (イネの茎又は葉の灰化物から抽出して得られたものをいう。)	ワラ灰抽出物	植物灰抽出物	イネ科イネ (<i>Oryza sativa</i> LINNE) の茎又は葉を灰化したものより、室温時水で抽出して得られたものであって、アルカリ金属及びアルカリ土類金属を含む。	製造用剤	Rice straw ash extract
30	イヌリナーゼ	イヌラーゼ		※	酵素	Inulinase
31	イノシトール	イノシット		「フィチン酸」を分解したものであり、又はアカザ科サトウダイコン (<i>Beta vulgaris</i> LINNE var. <i>rapa</i> DUMORTIER) の糖液又は糖蜜より、分離して得られたものである。成分はイノシトールである。	強化剤	Inositol
32	インベルターゼ	サッカラーゼ シュクラーゼ スクラーゼ		※	酵素	Invertase
33	ウェランガム (アルカリゲネスの培養液から得られた、多糖類を主成分とするものをいう。)	ウェラン多糖類		※	増粘安定剤	Welan Gum
34	ウコン色素 (ウコンの根茎から得られた、クルクミンを主成分とするものをいう。)	クルクミン ターメリック色素	ウコン	※	着色料	Turmeric Oleo-resin Curcumin
35	ウルシロウ (ウルシの果実から得られた、グリセリンパルミタートを主成分とするものをいう。)			ウルシ科ウルシ (<i>Rhus verniciflua</i> LINNE) の果実より、融解、さらして得られたものである。主成分はグリセリンパルミタートである。	ガムベース 光沢剤	Urushi Wax
36	ウレアーゼ		アミダーゼ	※	酵素	Urease
37	エキソマルトテトラオヒドラーゼ	G4生成酵素	アミラーゼ カルボヒドラーゼ	※	酵素	Exomaltotetraohydrolase
38	エステラーゼ			※	酵素	Esterase
39	エレミ樹脂 (エレミの分泌液から得られた、β-アミリンを主成分とするものをいう。)			カンラン科エレミ (<i>Canarium luzonicum</i> A. GRAY.) の分泌液を、乾燥して得られたものである。主成分はβ-アミリンである。	増粘安定剤 ガムベース	Elemi resin

既存添加物名簿収載品目リスト

番号	品名		簡略名又は類別名	基原・製法・本質	用途	備考
	名称	別名				
40	塩水湖水低塩化ナトリウム液 (塩水湖水から塩化ナトリウムを析出分離して得られた、アルカリ金属塩類及びアルカリ土類金属塩類を主成分とするものをいう。)		塩水湖水ミネラル液	塩水湖の塩水を、天日蒸散により濃縮し、塩化ナトリウムを析出分離し、残りの液体をろ過したものである。主成分はアルカリ金属塩類及びアルカリ土類金属塩類である。	調味料	Sodium chloride-decreased brine (saline lake)
41	オゾケライト	セレシン		ワックスシュールの鉱脈に含まれるロウを精製したものである。主成分はC29～C53の炭化水素である。	ガムベース	Ozokerite
42	オゾン			O ₃	製造用剤	Ozone
43	オリゴガラクチュロン酸			「ペクチン」をペクチナーゼで酵素分解し、限外ろ過して得られたものであって、ガラクチュロン酸の1～9量体の混合物からなる。	製造用剤	Oligogalacturonic acid
44	γ-オリザノール (米ぬか又は胚芽油から得られた、ステロールとフェルラ酸及びトリテルペンアルコールとフェルラ酸のエステルを主成分とするものをいう。)		オリザノール	※	酸化防止剤	γ-Oryzanol
45	オレガノ抽出物 (オレガノの葉から得られた、カルバクロール及びチモールを主成分とするものをいう。)			シソ科オレガノ (<i>Origanum vulgare</i> LINNE) の葉より、室温時～温時エタノール、含水エタノール又はヘキサンで抽出して得られたものである。成分としてチモール及びカルバクロールを含む。	製造用剤	Oregano extract
46	オレンジ色素 (アマダイダイの果実又は果皮から得られた、カロテン及びキサントフィルを主成分とするものをいう。)		カロチノイド カロチノイド色素 カロチノイド カロチノイド色素 果実色素	ミカン科アマダイダイ (<i>Citrus sinensis</i> OSBECK) の果実又は果皮より、搾汁したもの、又は熱時エタノール、ヘキサン若しくはアセトンで抽出し、溶媒を除去して得られたものである。主色素はβ-クリプトキサンチンの脂肪酸エステルである。黄色を呈する。	着色料	Orange colour
47	海藻灰抽出物 (褐藻類の灰化物から得られた、ヨウ化カリウムを主成分とするものをいう。)			褐藻類を焼成灰化したものより、水で抽出して得られたものである。主成分はヨウ化カリウムである。	製造用剤	Seaweed ash extract
48	カオリン	白陶土	不溶性鉱物性物質	※	製造用剤	Kaolin
49	カカオ色素 (カカオの種子から得られた、アントシアニンの重合物を主成分とするものをいう。)	ココア色素	カカオ フラボノイド フラボノイド色素	※	着色料	Cacao Color
50	カキ色素 (カキの果実から得られた、フラボノイドを主成分とするものをいう。)		果実色素 フラボノイド フラボノイド色素	カキノキ科カキ (<i>Diospyros kaki</i> THUNB.) の果実を発酵後、焙焼したものより、温時含水エタノールで抽出して得られたもの、又は温時弱アルカリ性水溶液で抽出し、中和して得られたものである。主色素はフラボノイドである。赤褐色を呈する。	着色料	Japanese persimmon colour
51	花こう斑岩		麦飯石	花こう斑岩を洗浄、粉碎したものを、乾燥後、滅菌して得られたものである。	製造用剤	Granite porphyry
52	カシアガム (エビスグサモドキの種子を粉砕して得られた、多糖類を主成分とするものをいう。)	カッシヤガム		マメ科エビスグサモドキ (<i>Cassia tora</i> LINNE) の種子の胚乳部を、粉砕して得られたものである。主成分は多糖類である。	増粘安定剤	Cassia gum
53	カタラーゼ		オキシダーゼ	※	酵素	Catalase
54	活性炭 (含炭素物質を炭化し、賦活化して得られたものをいう。)			※	製造用剤	Active Carbon
55	活性白土		不溶性鉱物性物質	※	製造用剤	Activated Acid Clay
56	ガティガム (ガティノキの分泌液から得られた、多糖類を主成分とするものをいう。)		ガティ	※	増粘安定剤	Gum Ghatti
57	カテキン			ツバキ科チャ (<i>Camellia sinensis</i> O. KZE.) の茎若しくは葉、マメ科ベグアセンヤク (<i>Acacia catechu</i> WILLD.) の幹枝又はアカネ科ガンビール (<i>Uncaria gambir</i> ROXBURGH) の幹枝若しくは葉より、乾留した後、水又はエタノールで抽出し、精製して得られたもの、又は熱時水で抽出した後、メタノール若しくは酢酸エチルで分配して得られたものである。成分はカテキン類である。	酸化防止剤	Catechin
58	カードラン (アグロバクテリウム又はアルカリゲネスの培養液から得られた、β-1,3-グルカンを主成分とするものをいう。)		ブドウ糖多糖	※	増粘安定剤 製造用剤	Curdlan
59	カフェイン (抽出物) (コーヒーの種子又はチャの葉から得られた、カフェインを主成分とするものをいう。)		カフェイン	※	苦味料等	Caffeine (Extract)

既存添加物名簿収載品目リスト

番号	品名		簡略名又は類別名	基原・製法・本質	用途	備考
	名称	別名				
60	カラギナン (イバラノリ、キリンサイ、ギンナンソウ、スギノリ又はツノマタの全藻から得られた、i-カラギナン、k-カラギナン及びl-カラギナンを主成分とするものをいう。)	カラギーナン カラゲナン カラゲーナン カラゲニン			増粘安定剤	Carrageenan
	加工ユーケマ藻類		ユーケマ	※		Semirefined Carrageenan Processed Eucheuma Algae Processed Red Algae
	精製カラギナン		紅藻抽出物	※		Purified Carrageenan Refined Carrageenan
	ユーケマ藻末		ユーケマ	ミリン科キリンサイ属 (Eucheuma) の全藻を、乾燥、粉砕して得られたものである。		Powdered red algae
61	α-ガラクトシダーゼ	メリビアーゼ	カルポヒドラーゼ	※	酵素	α-Galactosidase
62	β-ガラクトシダーゼ	ラクターゼ	カルポヒドラーゼ	※	酵素	β-Galactosidase (Lactase)
63	カラシ抽出物 (カラシナの種子から得られた、イソチオシアネートアシルを主成分とするものをいう。)		マスタード抽出物	※	製造用剤	Mustard Extract
64	カラメルⅠ (でん粉加水分解物、糖蜜又は糖類の食用炭水化物を熱処理して得られたものをいう。ただし、「カラメルⅡ」、「カラメルⅢ」及び「カラメルⅣ」を除く。)	カラメル	カラメル色素	※	着色料 製造用剤	Caramel I (Plain caramel)
65	カラメルⅡ (でん粉加水分解物、糖蜜又は糖類の食用炭水化物に亜硫酸化合物を加えて熱処理して得られたものをいう。ただし、「カラメルⅣ」を除く。)	カラメル	カラメル色素	※	着色料 製造用剤	Caramel II (Sulfite caramel)
66	カラメルⅢ (でん粉加水分解物、糖蜜又は糖類の食用炭水化物にアンモニウム化合物を加えて熱処理して得られたものをいう。ただし、「カラメルⅣ」を除く。)	カラメル	カラメル色素	※	着色料 製造用剤	Caramel III (Ammonia caramel)
67	カラメルⅣ (でん粉加水分解物、糖蜜又は糖類の食用炭水化物に亜硫酸化合物及びアンモニウム化合物を加えて熱処理して得られたものをいう。)	カラメル	カラメル色素	※	着色料 製造用剤	Caramel IV (Sulfite ammonia caramel)
68	カラヤガム (カラヤ又はキバナワタモドキの分泌液から得られた、多糖類を主成分とするものをいう。)		カラヤ	※	増粘安定剤	Karaya Gum
69	カルナウバワックス (ブラジルロウヤシの葉から得られた、ヒドロキシセロチン酸セリルを主成分とするものをいう。)	カルナウバワックス ブラジルワックス	植物ワックス	※	ガムベース 光沢剤	Carnauba Wax Brazil Wax
70	カルボキシペプチダーゼ			※	酵素	Carboxypeptidase
71	カロブ色素 (イナゴマメの種子の胚芽を粉砕して得られたものをいう。)		カロブ カロブジャーム フラボノイド フラボノイド色素	※	着色料 製造用剤	Carob Germ Color
72	カロブビーンガム (イナゴマメの種子の胚乳を粉砕し、又は溶解し、沈殿して得られたものをいう。)	ローカストビーンガム	ローカスト	※	増粘安定剤	Carob Bean Gum Locust Bean Gum
73	カラワヨモギ抽出物 (カラワヨモギの全草から得られた、カピリンを主成分とするものをいう。)		カラワヨモギ	キク科カラワヨモギ (Artemisia capillaris THUNB.) の全草より、室温時エタノール若しくは含水エタノールで抽出して得られたもの、又は水蒸気蒸留して得られたものである。有効成分はカピリン等である。	保存料	Rumput roman extract
74	カンゾウ抽出物 (ウラルカンゾウ、チョウカカンゾウ又はヨウカンゾウの根又は根茎から得られた、グリチルリチン酸を主成分とするものをいう。)	カンゾウエキス グリチルリチン リコリス抽出物	カンゾウ カンゾウ甘味料 リコリス	※	甘味料	Licorice Extract
75	カンゾウ油性抽出物 (ウラルカンゾウ、チョウカカンゾウ又はヨウカンゾウの根又は根茎から得られた、フラボノイドを主成分とするものをいう。)		油性カンゾウ	マメ科ウラルカンゾウ (Glycyrrhiza uralensis FISHER)、マメ科チョウカカンゾウ (Glycyrrhiza inflata BATALIN) 又はマメ科ヨウカンゾウ (Glycyrrhiza glabra LINNE) の根又は根茎を水で洗浄した残渣より、室温時～温時エタノール、アセトン又はヘキサンで抽出して得られたものである。主成分はフラボノイドである。	酸化防止剤	Licorice oil extract
76	カンデリラワックス (カンデリラの茎から得られた、ヘントリアンタンを主成分とするものをいう。)	カンデリラワックス キャンデリラワックス キャンデリラワックス	植物ワックス	※	ガムベース 光沢剤	Candelilla Wax
77	キサンタンガム (キサントモナスの培養液から得られた、多糖類を主成分とするものをいう。)	キサンタン多糖類 ザンサンガム	キサンタン	※	増粘安定剤	Xanthan Gum
78	キシラーナーゼ			※	酵素	Xylanase
79	D-キシロース		キシロース	※	甘味料	D-Xylose
80	キチナーゼ			※	酵素	Chitinase
81	キチン			エビ、カニ等甲殻類の甲殻又はイカの甲を、室温時～温時酸性水溶液で炭酸カルシウムを除去した後、温時～熱時弱アルカリ性水溶液でタンパク質を除去したもので、N-アセチル-D-グルコサミンの多量体からなる。	増粘安定剤	Chitin
82	キトサンナーゼ			※	酵素	Chitosanase
83	キトサン			「キチン」を、温時～熱時水酸化ナトリウム水溶液で脱アセチル化したもので、D-グルコサミンの多量体からなる。	増粘安定剤 製造用剤	Chitosan
84	キナ抽出物 (アカキナの樹皮から得られた、キニジン、キニーネ及びシンヨニンを主成分とするものをいう。)			アカネ科アカキナ (Cinchona succirubra PAVON) の樹皮より、水又はエタノール等で抽出して得られたものである。有効成分はキニーネ、キニジン及びシンヨニンである。	苦味料等	Redbark cinchona extract

既存添加物名簿収載品目リスト

番号	品名		簡略名又は類別名	基原・製法・本質	用途	備考
	名称	別名				
85	キハダ抽出物 (キハダの樹皮から得られた、ベルベリンを主成分とするものをいう。)		キハダ	ミカン科キハダ (<i>Phellodendron amurense</i> RUPR.) の樹皮より、水又はエタノールで抽出して得られたものである。主成分はベルベリンである。	苦味料等	Phellodendron bark extract
86	キラヤ抽出物 (キラヤの樹皮から得られた、サポニン主成分とするものをいう。)	キラヤサポニン	サポニン	※	乳化剤	Quillaja Extract Quillaja Extract
87	金	金箔		¹⁹⁷ Au	着色料 製造用剤	Gold
88	銀	銀箔		¹⁰⁷ Ag, ¹⁰⁸ Ag	着色料	Silver
89	グァーガム (グァーの種子から得られた、多糖類を主成分とするものをいう。ただし、「グァーガム酵素分解物」を除く。)	グァーフラワー グァルガム	グァー	※	増粘安定剤	Guar Gum
90	グァーガム酵素分解物 (グァーの種子を粉砕し、分解して得られた、多糖類を主成分とするものをいう。)	グァーフラワー酵素分解物 グァルガム酵素分解物	グァー分解物	「グァーガム」を、酵素(α-ガラクトシダーゼ、ヘミセルラーゼ)で分解して得られたものである。主成分は多糖類である。	増粘安定剤	Enzymatically hydrolyzed guar gum
91	グアヤク脂 (ユソウボクの幹枝から得られた、グアヤコン酸、グアヤレチック酸及びβ-レジン主成分とするものをいう。)			ハマビシ科ユソウボク (<i>Guaiacum officinale</i> LINNE) の幹枝を、加熱して得られたものである。有効成分は、グアヤコン酸、グアヤレチック酸及びβ-レジンである。	酸化防止剤	Guaiac resin
92	グアヤク樹脂 (ユソウボクの分泌液から得られた、α-グアヤコン酸及びβ-グアヤコン酸を主成分とするものをいう。)			ハマビシ科ユソウボク (<i>Guaiacum officinale</i> LINNE) の分泌液を、室温時エタノールで抽出し、ろ液からエタノールを留去して得られたものである。主構成成分はα-、β-グアヤコン酸である。	ガムベース	Guajac resin (extract)
93	クエルセチン	ケルセチン	ルチン分解物	「ルチン(抽出物)」を、酵素又は酸性水溶液で加水分解して得られたものである。成分はクエルセチンである。	酸化防止剤	Quercetin
94	クチナン青色素 (クチナシの果実から得られたイリド配糖体とタンパク質分解物の混合物にβ-グルコシダーゼを添加して得られたものをいう。)		クチナシ クチナン色素	※	着色料	Gardenia Blue
95	クチナン赤色素 (クチナシの果実から得られたイリド配糖体のエステル加水分解物とタンパク質分解物の混合物にβ-グルコシダーゼを添加して得られたものをいう。)		クチナシ クチナン色素	※	着色料	Gardenia Red
96	クチナン黄色素 (クチナシの果実から得られた、クロシン及びクロセチンを主成分とするものをいう。)		カロチノイド カロチノイド色素 カロチノイド カロチノイド色素 クチナン クチナン色素 クロシン	※	着色料	Gardenia Yellow
97	グッタハンカン (グッタハンカンの分泌液から得られた、アミリンアセター及びポリイソブレンを主成分とするものをいう。)			※	ガムベース	Gutta hang kang
98	グッタベルカ (グッタベルカの分泌液から得られた、ポリイソブレンを主成分とするものをいう。)			アカテツ科グッタベルカ (<i>Palauquium gutta</i> BURCK.) の幹枝より得られたラテックスを、熱湯水で洗浄し、水溶成分を除去したものより得られたものである。主成分はトランスポリイソブレンである。	ガムベース	Gutta percha
99	クリストバル石		不溶性鉱物性物質	鉱床より採掘したクリストバル石を、粉碎乾燥、800~1200℃で焼成、又は塩酸処理して焼成したものである。	製造用剤	Cristobalite
100	グルカナナーゼ		カルボヒドラーゼ ヘミセルラーゼ	※	酵素	Glucanase
101	グルコアミラーゼ	糖化アミラーゼ	アミラーゼ カルボヒドラーゼ	※	酵素	Glucosylase
102	グルコサミン			「キチン」を、塩酸で加水分解し、分離して得られたものである。成分はグルコサミンである。	増粘安定剤 製造用剤	Glucosamine
103	α-グルコシダーゼ	マルターゼ		※	酵素	α-Glucosidase
104	β-グルコシダーゼ	ゲンチオビアーゼ セロビアーゼ		※	酵素	β-Glucosidase
105	α-グルコシルトランスフェラーゼ	4-α-グルカノトランスフェラーゼ 6-α-グルカノトランスフェラーゼ		※	酵素	α-Glucosyltransferase 4-α-Glucanotransferase 6-α-Glucanotransferase
106	α-グルコシルトランスフェラーゼ処理ステビア (「ステビア抽出物」から得られた、α-グルコシルステビオンドを主成分とするものをいう。)	酵素処理ステビア	ステビア ステビア甘味料 糖転移ステビア	※	甘味料	α-Glucosyltransferase Treated Stevia
107	グルコースイソメラーゼ			※	酵素	Glucose Isomerase
108	グルコースオキシダーゼ			※	酵素	Glucose Oxidase
109	グルタミナーゼ		アミダーゼ	※	酵素	Glutaminase
110	L-グルタミン		グルタミン	※	調味料 強化剤	L-Glutamine
111	グレープフルーツ種子抽出物 (グレープフルーツの種子から得られた、脂肪酸及びフラボノイドを主成分とするものをいう。)		グレープフルーツ種子	ミカン科グレープフルーツ (<i>Citrus paradisi</i> MACF.) の種子より、水又はエタノールで抽出して得られたものである。主成分は脂肪酸及びフラボノイドである。	製造用剤	Grapefruit seed extract
112	クローブ抽出物 (クローブのつぼみ、葉又は花から得られた、オイゲノールを主成分とするものをいう。)	チョウジ抽出物	チョウジ油	フトモモ科チョウジ (<i>Syzygium aromaticum</i> MERRILL et PERRY) のつぼみ、葉又は花より、エタノール又はアセトンで抽出して得られたもの、又は水蒸気蒸留により得られたものである。主成分はオイゲノール等である。	酸化防止剤	Clove extract
113	クロロフィリン		葉緑素	「クロロフィル」を、温時アルカリ性エタノール水溶液で加水分解し、希塩酸で中和した後、含水エタノールで抽出して得られたものである。主成分はマグネシウムクロロフィリンである。緑色を呈する。	着色料	Chlorophylline
114	クロロフィル		葉緑素	※	着色料	Chlorophyll

既存添加物名簿収載品目リスト

番号	品名	簡略名又は類別名	基原・製法・本質	用途	備考
	名称	別名			
115	くん液 (サトウキビ、竹材、トウモロコシ又は木材を燃焼して発生したガス成分を捕集し、又は乾溜して得られたものをいう。)		スモークフレーバー	製造用剤	Smoke flavourings
	木酢液				Wood vinegar Pyroligneous acid
	リキッドスモーク				Liquid smoke
116	ケイソウ土		不溶性鉱物性物質	製造用剤	Diatomaceous Earth
177	ゲンチアナ抽出物 (ゲンチアナの根又は根茎から得られた、アマロゲンチン及びゲンチオピクロシドを主成分とするものをいう。)			※ リンドウ科ゲンチアナ (<i>Gentiana lutea</i> LINNE) の根又は根茎より、水又はエタノールで抽出して得られたものである。有効成分はゲンチオピクロシド (ゲンチオピクリン) 及びアマロゲンチンである。	苦味料等
118	高級脂肪酸 (動植物性油脂又は動植物性硬化油脂を加水分解して得られたものをいう。)		脂肪酸	製造用剤	
119	香辛料抽出物 (アサノミ、アサフェチダ、アジョワン、アニス、アンゼリカ、ウイキョウ、ウコン、オールスパイス、オレガノ、オレンジピール、カシウ、カッシャー、カモミール、カラシナ、カルダモン、カレーリーフ、カンゾウ、キャラウェイ、クチナシ、クミン、クレソン、クローブ、ケシノミ、ケーパー、コショウ、ゴマ、コリアンダー、サッサfras、サフラン、サボリー、サルビア、サンショウ、シソ、シナモン、シャロット、ジュニパーベリー、ショウガ、スターアニス、スベアミント、セイヨウワサビ、セロリー、ソーレル、タイム、タマネギ、タマリンド、タラゴン、チャイブ、ディル、トウガラシ、ナツメグ、ニガヨモギ、ニジェラ、ニンジン、ニンニク、バジル、パセリ、ハッカ、バニラ、パプリカ、ヒソップ、フェネグリーク、ペパーミント、ホースミント、マジョラム、ミョウガ、ラベンダー、リンデン、レモングラス、レモンバーム、ローズ、ローズマリー、ローレル又はワサビから抽出し、又はこれを水蒸気蒸留して得られたものをいう。ただし、「ウコン色素」、「オレガノ抽出物」、「オレンジ色素」、「カラシ抽出物」、「カンゾウ抽出物」、「カンゾウ油性抽出物」、「クチナシ黄色素」、「クローブ抽出物」、「ゴマ油不けん化物」、「シソ抽出物」、「ショウガ抽出物」「精油除去ウイキョウ抽出物」、「セイヨウワサビ抽出物」、「セージ抽出物」、「タマネギ色素」、「タマリンド色素」、「タマリンドシードガム」、「タンニン (抽出物)」、「トウガラシ色素」、「トウガラシ水性抽出物」、「ニガヨモギ抽出物」、「ニンジンカロテン」及び「ローズマリー抽出物」を除く。)	スパイス抽出物	香辛料 スパイス	※ スターアニス、スベアミント、セイヨウワサビ、セロリー、ソーレル、タイム、タマネギ、タマリンド、タラゴン、チャイブ、チャービル、ディル、トウガラシ、ナツメグ、ニガヨモギ、ニジェラ、ニンジン、ニンニク、バジル、パセリ、ハッカ、バニラ、パプリカ、ヒソップ、フェネグリーク、ペパーミント、ホースミント、マジョラム、ミョウガ、ラベンダー、リンデン、レモングラス、レモンバーム、ローズ、ローズマリー、ローレル又はワサビから抽出し、又はこれを水蒸気蒸留して得られたものをいう。ただし、「ウコン色素」、「オレガノ抽出物」、「オレンジ色素」、「カラシ抽出物」、「カンゾウ抽出物」、「カンゾウ油性抽出物」、「クチナシ黄色素」、「クローブ抽出物」、「ゴマ油不けん化物」、「シソ抽出物」、「ショウガ抽出物」「精油除去ウイキョウ抽出物」、「セイヨウワサビ抽出物」、「セージ抽出物」、「タマネギ色素」、「タマリンド色素」、「タマリンドシードガム」、「タンニン (抽出物)」、「トウガラシ色素」、「トウガラシ水性抽出物」、「ニガヨモギ抽出物」、「ニンジンカロテン」及び「ローズマリー抽出物」を除く。)	苦味料等
120	酵素処理イソクエルシトリン (「ルチン酵素分解物」から得られた、 α -グルコシルイソクエルシトリンを主成分とするものをいう。)	糖転移イソクエルシトリン	酵素処理ルチン 糖転移ルチン	※	酸化防止剤 Enzymatically Modified Isoquercitrin
121	酵素処理ナリンジン (「ナリンジン」から得られた、 α -グルコシルナリンジン主成分とするものをいう。)	糖転移ナリンジン	ナリンジン	※ 「ナリンジン」とデキストリンの混合物に、シクロデキストリングルコシルトランスフェラーゼを用いてグルコースを付加させたものである。有効成分は α -グルコシルナリンジンである。	苦味料等 Enzymatically modified naringin
122	酵素処理ヘスペリジン (「ヘスペリジン」にシクロデキストリングルコシルトランスフェラーゼを用いてグルコースを付加して得られたものをいう。)	糖転移ヘスペリジン 糖転移ビタミンP	ヘスペリジン	※	強化剤 Enzymatically Modified Hesperidin
123	酵素処理ルチン (抽出物) (「ルチン (抽出物)」から得られた、 α -グルコシルルチンを主成分とするものをいう。)	糖転移ルチン (抽出物)	酵素処理ルチン 糖転移ルチン	※	酸化防止剤 強化剤 着色料 Enzymatically Modified Rutin (Extract)
124	酵素処理レシチン (「植物レシチン」又は「卵黄レシチン」から得られた、ホスファチジルグリセロールを主成分とするものをいう。)		レシチン	※ 「植物レシチン」又は「卵黄レシチン」とグリセリンの混合物に、ホスホリパーゼDを用いて得られたものである。主成分はホスファチジルグリセロールである。	乳化剤 Enzymatically modified lecithin
125	酵素分解カンゾウ (「カンゾウ抽出物」を酵素分解して得られた、グリチルレチン酸-3-グルクロニドを主成分とするものをいう。)		カンゾウ	※	甘味料 Enzymatically Hydrolyzed Licorice Extract
126	酵素分解リンゴ抽出物 (リンゴの果実を酵素分解して得られた、カテキン類及びクロロゲン酸を主成分とするものをいう。)		リンゴ抽出物 リンゴエキス	※ バラ科リンゴ (<i>Malus pumila</i> MILLER) の果実を搾汁し、パルプを分離した後、得られた上清を酵素処理し、精製して得られたものである。有効成分はクロロゲン酸及びカテキン類である。	酸化防止剤 Enzymatically decomposed apple extract
127	酵素分解レシチン (「植物レシチン」又は「卵黄レシチン」から得られた、フォスファチジン酸及びリゾレシチンを主成分とするものをいう。)		レシチン	※	乳化剤 Enzymatically Decomposed Lecithin
128	酵母細胞壁 (サッカロミセスの細胞壁から得られた、多糖類を主成分とするものをいう。)		酵母細胞膜	※	増粘安定剤 製造用剤 Yeast Cell Wall
129	コウリヤン色素 (コウリヤンの種子から得られた、アピゲニニン及びルテオリニジンを主成分とするものをいう。)	キビ色素	フラボノイド フラボノイド色素	※	着色料 Kaoliang Color
130	コチニール色素 (エンジムシから得られた、カルミン酸を主成分とするものをいう。)	カルミン酸色素	カルミン酸 コチニール	※	着色料 Cochineal Extract Carminic Acid

既存添加物名簿収載品目リスト

番号	品名		簡略名又は類別名	基原・製法・本質	用途	備考
	名称	別名				
131	骨炭 (ウシの骨から得られた、炭末及びリン酸カルシウムを主成分とするものをいう。)			※	製造用剤	Bone Charcoal
132	ゴマ油不けん化物 (ゴマの種子から得られた、セサモリンを主成分とするものをいう。)		ゴマ油抽出物	ゴマ科ゴマ (<i>Sesamum indicum</i> LINNE) の種子又は種子の搾油糟より、エタノールで抽出して得られたものである。主成分はセサモリンである。	酸化防止剤	Sesame seed oil unsaponified matter
133	ゴマ柄灰抽出物 (ゴマの茎又は葉の灰化物から抽出して得られたものをいう。)			ゴマ (<i>Sesamum indicum</i> LINNE) の茎又は葉を灰化し、室温水で抽出し、上澄み液をろ過して得られたものである。	製造用剤	Sesame straw ash extract
134	ゴム (パラゴムの分泌液から得られた、ポリイソプレンを主成分とするものをいう。ただし、「低分子ゴム」を除く。)	カウチョック		トウダイグサ科パラゴム (<i>Hevea brasiliensis</i> MUELL.-ARG.) の幹枝より得られるラテックスを酸性水溶液で凝固させ、水洗、脱水したもので得られたものである。主成分はシスポリイソプレンである。	ゴムベース	Rubber
135	ゴム分解樹脂 (「ゴム」から得られた、ジテルペン、トリテルペン及びテトラテルペンを主成分とするものをいう。)			トウダイグサ科パラゴム (<i>Hevea brasiliensis</i> MUELL.-ARG.) の幹枝より得られるラテックスを、加熱分解したもの、又は酵素分解して得られた低分子の樹脂状物質である。主成分はC20~C40のテルペノイドである。	ゴムベース	Resin of depolymerized natural rubber
136	コメヌカ油抽出物 (米ぬか油から得られた、フェルラ酸を主成分とするものをいう。)	コメヌカ油不けん化物		※	酸化防止剤	Rice Bran Oil Extract
137	コメヌカ酵素分解物 (脱脂米ぬかから得られた、フィチン酸及びペプチドを主成分とするものをいう。)			イネ科イネ (<i>Oryza sativa</i> LINNE) の種子より得られる脱脂米ぬかを酵素分解したものより、水で抽出して得られたものである。主成分はペプチド及びフィチン酸である。	酸化防止剤	Enzymatically decomposed rice bran
138	コメヌカワックス (米ぬか油から得られた、リグノセリン酸ミリスルを主成分とするものをいう。)	コメヌカワックス ライスワックス	植物ワックス	イネ科イネ (<i>Oryza sativa</i> LINNE) の種子より得られる米ぬか油より、分離して得られたものである。主成分はリグノセリン酸ミリスルである。	ゴムベース 光沢剤	Rice bran wax
139	サイリウムシードガム (プロンドサイリウムの種皮から得られた、多糖類を主成分とするものをいう。)	サイリウムハスク	サイリウム	※	増粘安定剤	Psyllium Seed Gum
140	サトウキビロウ (サトウキビの茎から得られた、パルミチン酸ミリスルを主成分とするものをいう。)	カーンワックス ケーンワックス	植物ワックス	イネ科サトウキビ (<i>Saccharum officinarum</i> LINNE) の茎の搾汁残渣より、分離、精製して得られたものである。主成分はパルミチン酸ミリスルである。	ゴムベース	Cane wax
141	サバクヨモギシードガム (サバクヨモギの種皮から得られた、多糖類を主成分とするものをいう。)	アルテミシアシードガム サバクヨモギ種子多糖類		キク科サバクヨモギ (<i>Artemisia halodendron</i> TURCZ. ex BESS., <i>Artemisia ordosica</i> KRASCHEN., <i>Artemisia sphaerocephala</i> KRASCH) の種子の外皮を、脱脂、乾燥して得られたものである。主成分は、 α -セルロースを基本骨格に持つ、中性多糖類及び酸性多糖類である。	製造用剤 増粘安定剤	<i>Artemisia sphaerocephala</i> seed gum <i>Artemisia</i> seed gum
142	酸性白土		不溶性鉱物性物質	※	製造用剤	Acid Clay
143	酸性ホスファターゼ	ホスホモノエステラーゼ		※	酵素	Acid Phosphatase
144	酸素			O ₂	製造用剤	Oxygen
145	シアノコバラミン	ビタミンB ₁₂	V. B ₁₂	※	強化剤	Cyanocobalamin
146	シェラック (ラックカイガラムシの分泌液から得られた、アレウリチン酸とシェロール酸又はアレウリチン酸とジャラル酸のエステルを主成分とするものをいう。)	セラック		※	ゴムベース 光沢剤	Shellac
	白シェラック		白セラック 白ラック	※		
	精製シェラック		精製セラック	※		
147	シェラックロウ (ラックカイガラムシの分泌液から得られた、ろう分を主成分とするものをいう。)	セラックロウ		カイガラムシ科ラックカイガラムシ (<i>Laccifer lacca</i> KERR) の分泌する樹脂状物質を、室温水でエタノール又は温時アルカリ性水溶液に溶解し、ろ液からろう分を分離して得られたものである。主成分は樹脂酸エステルである。	ゴムベース 光沢剤	Shellac wax
148	ゼランガム (シュードモナスの培養液から得られた、多糖類を主成分とするものをいう。)	ゼラン多糖類	ゼラン	※	増粘安定剤	Gellan Gum
149	ジェルトン (ジェルトンの分泌液から得られた、アミリンアセタート及びポリイソプレンを主成分とするものをいう。)	ボンチアナック		キョウチクトウ科ジェルトン (<i>Dyera costulata</i> HOOK F., <i>Dyera lowii</i> HOOK F.) の幹枝から得られたラテックスを、熱湯で洗浄し、水溶成分を除去して得られたものである。主成分はアミリンアセタート及びシスポリイソプレンである。	ゴムベース	Jelutong
150	シクロデキストリン	サイクロデキストリン 分岐サイクロデキストリン 分岐シクロデキストリン	環状オリゴ糖	デンプンを、酵素処理し、非還元性環状デキストリンとして得られたものである。成分はシクロデキストリンである。	製造用剤	Cyclodextrin
151	シクロデキストリングルカノトランスフェラーゼ		トランスフェラーゼ	※	酵素	Cyclodextrin glucanotransferase
152	L-システイン		システイン	※	調味料 強化剤	L-Cystine
153	シソ抽出物 (シソの種子又は葉から得られた、テルペノイドを主成分とするものをいう。)	シソエキス		シソ科シソ (<i>Perilla crispa</i> TANAKA) の種子又は葉より、酸性水溶液又は温時含水エタノールで抽出したものを得られたものである。主成分はテルペノイドである。	製造用剤	Perilla extract
154	シタン色素 (シタンの幹枝から得られた、サンタリンを主成分とするものをいう。)	サンダルウッド色素	サンダルウッド フラボノイド フラボノイド色素	マメ科シタン (<i>Pterocarpus santalinus</i> LINNE) の幹枝より、水、熱時プロピレングルコール又は温時エタノールで抽出して得られたものである。主色素はサンタリンである。紫赤色を呈する。	着色料	Sandalwood red
155	5'-シチジル酸		5'-CMP	※	強化剤	5'-Cytidylic Acid
156	ジャマイカカッシア抽出物 (ジャマイカカッシアの幹枝又は樹皮から得られた、クアシン及びネオクアシンを主成分とするものをいう。)	カッシアエキス	カッシア	ニガキ科ジャマイカカッシア (<i>Quassia excelsa</i> SW.) の幹枝又は樹皮より、水で抽出して得られたものである。有効成分はクアシン及びネオクアシンである。	苦味料等	Jamaica quassia extract

既存添加物名簿収載品目リスト

番号	品名		簡略名又は類別名	基原・製法・本質	用途	備考
	名称	別名				
157	ショウガ抽出物 (ショウガの根茎から得られた、ショウガオール及びジンゲロールを主成分とするものをいう。)	ジンジャー抽出物		ショウガ科ショウガ (<i>Zingiber officinale</i> ROSC.) の根茎より、室温時エタノール、アセトン又はヘキサンで抽出して得られたものである。主成分はジンゲロール類及びショウガオール類である。	製造用剤	Ginger extract
158	焼成カルシウム (うに殻、貝殻、造礁サンゴ、ホエイ、骨又は卵殻を焼成して得られた、カルシウム化合物を主成分とするものをいう。)		焼成Ca		強化剤 製造用剤	卵殻焼成カルシウム
	うに殻焼成カルシウム		うに殻カルシウム うに殻Ca	うに殻を、焼成して得られたものである。主成分は酸化カルシウムである。		Calcinated sea urchin shell calcium
	貝殻焼成カルシウム		貝カルシウム 貝Ca	※		Calcinated Shell Calcium
	骨焼成カルシウム	骨カルシウム	骨Ca	※		Calcinated Bone Calcium
	造礁サンゴ焼成カルシウム		コーラルカルシウム コーラルCa サンゴカルシウム サンゴCa	イシサンゴ目の (<i>Scleractinia</i>) の造礁サンゴを、焼成して得られたものである。主成分は酸化カルシウムである。		Calcinated coral calcium
	乳清焼成カルシウム	乳清第三リン酸カルシウム ホエイ第三リン酸カルシウム ホエイリン酸三カルシウム	乳清リン酸カルシウム 乳清リン酸Ca ホエイリン酸カルシウム ホエイリン酸Ca	乳清(酸カゼインホエイ)より乳清タンパクと乳糖を分離、除去したものを、精製し焼成して得られたものである。主成分はリン酸三カルシウムである。		Tricalcium phosphate
	卵殻焼成カルシウム		卵殻カルシウム 卵殻Ca	※		Calcinated Eggshell Calcium
159	植物性ステロール (油種種子から得られた、フィトステロールを主成分とするものをいう。)	フィトステロール	ステロール	※	乳化剤	Vegetable Sterol
160	植物炭末色素 (植物を炭化して得られた、炭素を主成分とするものをいう。)	炭末色素	炭末	植物を、水蒸気賦活法で高温に加熱し炭化したものである。主色素は炭素である。黒色を呈する。	着色料	Vegetable carbon black
161	植物レシチン (アブラナ又はダイズの種子から得られた、レシチンを主成分とするものをいう。)	レシチン		アブラナ科アブラナ (<i>Brassica campestris</i> LINNE)、マメ科ダイズ (<i>Glycine max</i> MERRILL) の種子より得られた油脂より、分離して得られたものである。主成分はレシチンである。	乳化剤	Vegetable lecithin
162	しらこたん白抽出物 (魚類の精巢から得られた、塩基性タンパク質を主成分とするものをいう。)	しらこたん白 しらこ分解物 プロタミン	核たん白 しらこ	※	保存料	Milt Protein
163	水素			H ₂	製造用剤	Hydrogen
164	ステビア抽出物 (ステビアの葉から抽出して得られた、ステビオール配糖体を主成分とするものをいう。)	ステビアエキス ステビオシド レバウジオシド	ステビア ステビア甘味料	※	甘味料	Stevia extract
165	ステビア末 (ステビアの葉を粉砕して得られた、ステビオール配糖体を主成分とするものをいう。)		ステビア	キク科ステビア (<i>Stevia rebaudiana</i> BERTONI) の葉を、粉末としたものである。主成分はステビオール配糖体(ステビオシド及びレバウジオシド)である。	甘味料	Powdered stevia
166	スピルリナ色素 (スピルリナの全藻から得られた、フィコシアニンを主成分とするものをいう。)	スピルリナ青色素	スピルリナ青	※	着色料	Spirulina Color
167	スフィンゴ脂質 (米ぬかから得られた、スフィンゴシン誘導体を主成分とするものをいう。)			イネ科イネ (<i>Oryza sativa</i> LINNE) の種子又は小麦 (<i>Triticum aestivum</i> LINNE) の胚芽から得られた米ぬかより、室温時~温時エタノール、含水エタノール、イソプロピルアルコール、アセトン、ヘキサン又は酢酸エチルで抽出したもので得られたものである。主成分はスフィンゴシン誘導体である。	乳化剤	Sphingolipid
168	生石灰			石灰石を、焼成して得られたものである。主成分は酸化カルシウムである。	製造用剤	Quicklime
169	精油除去ウイキョウ抽出物 (ウイキョウの種子から得られた、グルコシルシナピルアルコールを主成分とするものをいう。)	精油除去フェネル抽出物		セリ科ウイキョウ (<i>Foeniculum vulgare</i> LINNE) の種子を水蒸気蒸留した残渣より、熱時水で抽出し、濃縮して得られたものである。主成分は4-O- α -D-グルコシルシナピルアルコールである。	酸化防止剤	Essential oil-removed fennel extract
170	セイヨウワサビ抽出物 (セイヨウワサビの根から得られた、イソチオシアナートを主成分とするものをいう。)	ホースラディッシュ抽出物		アブラナ科セイヨウワサビ (<i>Armoracia rusticana</i> P. GAERTN., B. MEYER et SCHERB.) の根を、粉砕後、水蒸気蒸留で抽出して得られたものである。主成分はイソチオシアナートである。	酸化防止剤	Horseradish extract
171	ゼイン (トウモロコシの種子から得られた、植物性タンパク質を主成分とするものをいう。)	トウモロコシたん白		イネ科トウモロコシ (<i>Zea mays</i> LINNE) の種子を粉末化したものより、エタノール又はアセトンで抽出し、精製して得られたものである。主成分はプロラミンに属する植物性タンパク質である。	製造用剤	Zein
172	ゼオライト		不溶性珪物性物質	鉱床より採掘したゼオライトを精製して得られたものである。主成分は結晶性アルミノケイ酸塩である。	製造用剤	Zeolite
173	セージ抽出物 (サルビアの葉から得られた、カルノシン酸及びフェノール性ジテルペンを主成分とするものをいう。)			シソ科サルビア (<i>Salvia officinalis</i> LINNE) の葉より、水、エタノール又はヘキサンで抽出して得られたものである。有効成分はフェノール性ジテルペノイド(ジテルペン)及びカルノシン酸である。	酸化防止剤	Sage extract
174	セピオライト			鉱石セピオライトを、粉砕して得られたものである。主成分はイノケイ酸のマグネシウム塩である。	製造用剤	Sepiolite
175	L-セリン		セリン	※	調味料 強化剤	L-Serine
176	セルラーゼ	繊維素分解酵素	カルボヒドラーゼ	※	酵素	Cellulase
177	粗製海水塩化カリウム (海水から塩化ナトリウムを析出分離して得られた、塩化カリウムを主成分とするものをいう。)			海水を、濃縮し、塩化ナトリウムを析出分離させた後、そのろ液を、室温まで冷却し、析出分離させたものである。主成分は塩化カリウムである。	調味料	Crude potassium chloride (sea water)

既存添加物名簿収載品目リスト

番号	品名		簡略名又は類別名	基原・製法・本質	用途	備考
	名称	別名				
178	粗製海水塩化マグネシウム (海水から塩化カリウム及び塩化ナトリウムを析出分離して得られた、塩化マグネシウムを主成分とするものをいう。)	塩化マグネシウム含有物		海水より、塩化ナトリウムを析出分離し、その母液を冷却して析出する塩化カリウム等を分離した残りのものである。主成分は塩化マグネシウムである。	製造用剤	Crude magnesium chloride (sea water)
179	ソバ柄灰抽出物 (ソバの茎又は葉の灰化物から抽出して得られたものをいう。)		植物灰抽出物	タデ科ソバ (<i>Fagopyrum esculentum</i> MOENCH.) の茎又は葉を灰化したものより、熱湯水で抽出して得られたものであって、アルカリ金属及びアルカリ土類金属を含む。	製造用剤	Buckwheat ash extract
180	ソルバ (ソルバの分泌液から得られた、アミリンアセタート及びポリイソプレンを主成分とするものをいう。)	ペリージョ ペンダーレ レッチェカスピ		キョウチクトウ科ソルバ (<i>Couma macrocarpa</i> BARB. RODR.) の幹枝から得られたラテックスを、熱湯水で洗浄し、水溶成分を除去して得られたものである。主成分はアミリンアセタート及びシスポリイソプレンである。	ガムベース	Sorva Leche caspi
181	ソルビンハ (ソルビンハの分泌液から得られた、アミリンアセタート及びポリイソプレンを主成分とするものをいう。)	ソルバペケーニヤ		キョウチクトウ科ソルビンハ (<i>Couma utilis</i> MUELL.) の幹枝より得られたラテックスを、熱湯水で洗浄し、水溶成分を除去して得られたものである。主成分はアミリンアセタート及びシスポリイソプレンである。	ガムベース	Sorvinha
182	ダイズサポニン (ダイズの種子から得られた、サポニンを主成分とするものをいう。)		サポニン	マメ科ダイズ (<i>Glycine max</i> MERRILL) の種子を粉砕し、水又はエタノールで抽出し、精製して得られたものである。主成分はサポニン (ソヤサポニン等) である。	乳化剤	Soybean saponin
183	タウマチン (タウマトコッカスダニエリの種子から得られた、タウマチンを主成分とするものをいう。)	ソーマチン		※	甘味料	Thaumatococin
184	タウリン (抽出物) (魚類又はほ乳類の臓器又は肉から得られた、タウリンを主成分とするものをいう。)		タウリン	※	調味料	Taurine (Extract)
185	タマネギ色素 (タマネギのりん茎から得られた、クエルセチンを主成分とするものをいう。)		フラボノイド フラボノイド色素 野菜色素	※	着色料	Onion Color
186	タマリンド色素 (タマリンドの種子から得られた、フラボノイドを主成分とするものをいう。)		フラボノイド フラボノイド色素	※	着色料	Tamarind Color
187	タマリンドシードガム (タマリンドの種子から得られた、多糖類を主成分とするものをいう。)	タマリンドガム タマリンド種子多糖類	タマリンド	※	増粘安定剤	Tamarind Seed Gum
188	タラガム (タラの種子から得られた、多糖類を主成分とするものをいう。)			※	増粘安定剤	Tara Gum
189	タルク		不溶性鉱物性物質	※	ガムベース 製造用剤	Talc
190	胆汁末 (胆汁から得られた、コール酸及びデソキシコール酸を主成分とするものをいう。)	コール酸 デソキシコール酸		動物の胆汁を、粉末化して得られたものである。主成分はコール酸及びデソキシコール酸である。	乳化剤	Powdered bile
191	単糖・アミノ酸複合物 (アミノ酸と単糖類の混合物を加熱して得られたものをいう。)		糖・アミノ酸複合物	アミノ酸と単糖類の混合液を、常圧下で加熱して得られたものである。	酸化防止剤	Amino acid-sugar reaction product
192	タンナーゼ			※	酵素	Tannase
193	タンニン (抽出物) (カキの果実、五倍子、タラ末、没食子又はミモザの樹皮から得られた、タンニン及びタンニン酸を主成分とするものをいう。)	タンニン酸 (抽出物)	タンニン タンニン酸		製造用剤	Tannin (extract)
	柿タンニン	柿渋 柿抽出物		カキ科カキ (<i>Diospyros kaki</i> THUNB.) の実より、搾汁したもの、又は水若しくはエタノールで抽出して得られたものである。主成分はタンニン及びタンニン酸である。		Tannin of persimmon
	植物タンニン ミモザタンニン			※ マメ科ミモザ (<i>Acacia dealbata</i> LINNE) の樹皮より、水又はエタノールで抽出して得られたものである。主成分はタンニン及びタンニン酸である。		Vegetable Tannin Tannin of silver wattle
194	チクル (サボジラの分泌液から得られた、アミリンアセタート及びポリイソプレンを主成分とするものをいう。)	クラウンガム チクブル ニスベロ		アカテツ科サボジラ (<i>Achras zapota</i> LINNE) の幹枝より得られたラテックスを、脱水したのもより得られたものである。主成分はアミリンアセタート及びポリイソプレンである。	ガムベース	Chicle Chiquibul Crown gum Nispero
195	窒素			N ₂	製造用剤	Nitrogen
196	チャ乾留物 (チャの葉を乾留して得られたものをいう。)			ツバキ科チャ (<i>Camellia sinensis</i> O. KZE.) の葉より製した茶を、乾留して得られたものである。有効成分は特定できないが、アミノ酸、カフェイン、タンニン、カテキン類を含む。	製造用剤	Tea dry distillate
197	チャ抽出物 (チャの葉から得られた、カテキン類を主成分とするものをいう。)	ウーロンチャ抽出物 緑茶抽出物		ツバキ科チャ (<i>Camellia sinensis</i> O. KZE.) の葉より製した茶より、室温時、温時又は熱時、水、酸性水溶液、含水エタノール、エタノール、含水メタノール、メタノール、アセトン、酢酸エチル又はグリセリン水溶液で抽出したのもより得られたものである。成分としてカテキン類を含む。なお、チャの葉の処理方法によりウーロンチャ抽出物と呼ばれるものがある。	酸化防止剤 製造用剤	Tea extract
198	チルテ (チルテの分泌液から得られた、アミリンアセタート及びポリイソプレンを主成分とするものをいう。)			トウダイグサ科チルテ (<i>Gnidoscolus elasticus</i> LUNDELL.) の幹枝より得られたラテックスを、熱湯水で洗浄し、水溶成分を除去して得られたものである。主成分はアミリンアセタート及びポリイソプレンである。	ガムベース	Chilte
199	L-チロシン		L-チロジン チロシン チロジン	※	調味料 強化剤	L-Tyrosine
200	ツヌー (ツヌーの分泌液から得られた、アミリンアセタート及びポリイソプレンを主成分とするものをいう。)			クワ科ツヌー (<i>Castilla fallax</i> COOK) の幹枝より得られたラテックスを、脱水したのもより得られたものである。主成分はアミリンアセタート及びポリイソプレンである。	ガムベース	Tunu

既存添加物名簿収載品目リスト

番号	品名	別名	簡略名又は類別名	基原・製法・本質	用途	備考
201	ツヤブリシン（抽出物） （ヒバの幹枝又は根から得られた、ツヤブリシン類を主成分とするものをいう。）	ヒノキチオール（抽出物）	ヒノキチオール	※	保存料	Thujaplicin (Extract) Hinokitiol (Extract)
202	5'-デアミナーゼ			※	酵素	5'-Deaminase
203	低分子ゴム （パラゴムの分泌液を分解して得られた、ポリイソプレンを主成分とするものをいう。）			※	増粘安定剤	Depolymerized natural rubber
204	テオブロミン			※	苦味料等	Theobromine
205	デキストラナーゼ			※	酵素	Dextranase
206	デキストラン		ブドウ糖多糖	※	増粘安定剤	Dextran
207	鉄			⁵⁴ Fe, ⁵⁶ Fe, ⁵⁷ Fe, ⁵⁸ Fe	強化剤 製造用剤	Iron
208	デュナリエラカロテン （デュナリエラの全藻から得られた、β-カロテンを主成分とするものをいう。）	藻類カロテン 藻類カロテン デュナリエラカロチン ドナリエラカロチン ドナリエラカロチン抽出カロチン 抽出カロチン	カロチノイド カロチノイド色素 カロチン カロチン色素 カロチノイド カロチノイド色素 カロチン カロチン色素	※	強化剤 着色料	Dunaliella Carotene
209	銅			⁶³ Cu, ⁶⁵ Cu	製造用剤	Copper
210	トウガラシ色素 （トウガラシの果実から得られた、カプサンチン類を主成分とするものをいう。）	カプシカム色素 パブリカ色素	カロチノイド カロチノイド色素 カロチノイド カロチノイド色素	※	着色料	Paprika Color Paprika Oleoresin
211	トウガラシ水性抽出物 （トウガラシの果実から抽出して得られた、水溶性物質を主成分とするものをいう。）	カプシカム水性抽出物 パブリカ水性抽出物	カプシカム抽出物 トウガラシ抽出物 パブリカ抽出物	※	製造用剤	Capsicum water-soluble extract
212	動物性ステロール （魚油又は「ラノリン」から得られた、コレステロールを主成分とするものをいう。）	コレステロール	ステロール	※	乳化剤	Cholesterol
213	トコトリエノール			※	酸化防止剤	Tocotrienol
214	d-α-トコフェロール	α-ビタミンE	抽出V.E トコフェロール α-トコフェロール ビタミンE V.E 抽出トコフェロール 抽出ビタミンE	※	酸化防止剤 強化剤	d-α-Tocopherol
215	d-γ-トコフェロール	γ-ビタミンE	抽出V.E トコフェロール γ-トコフェロール ビタミンE V.E 抽出トコフェロール 抽出ビタミンE	※	酸化防止剤 強化剤	d-γ-Tocopherol
216	d-δ-トコフェロール	δ-ビタミンE	抽出V.E トコフェロール δ-トコフェロール ビタミンE V.E 抽出トコフェロール 抽出ビタミンE	※	酸化防止剤 強化剤	d-δ-Tocopherol
217	トマト色素 （トマトの果実から得られた、リコピンを主成分とするものをいう。）	トマトリコピン	カロチノイド カロチノイド色素 カロチノイド カロチノイド色素 野菜色素	※	着色料	Tomato Color
218	トラガントガム （トラガントの分泌液から得られた、多糖類を主成分とするものをいう。）		トラガント	※	増粘安定剤	Tragacanth Gum
219	トランスグルコシダーゼ			※	酵素	Transglucosidase
220	トランスグルタミナーゼ			※	酵素	Transglutaminase
221	トリプシン			※	酵素	Trypsin
222	トレハロース			※	製造用剤	Trehalose
223	トレハロースホスホリラーゼ			※	酵素	Trehalose Phosphorylase
224	トロロアオイ （トロロアオイの根から得られた、多糖類を主成分とするものをいう。）			※	増粘安定剤	Tororoaioi
225	納豆菌ガム （納豆菌の培養液から得られた、ポリグルタミン酸を主成分とするものをいう。）	納豆菌粘質物	ポリグルタミン酸	※	増粘安定剤 製造用剤	Bacillus Natto Gum
226	ナフサ	石油ナフサ		※	製造用剤	Petroleum naphtha

既存添加物名簿収載品目リスト

番号	品名		簡略名又は類別名	基原・製法・本質	用途	備考	
	名称	別名					
227	生コーヒー豆抽出物 (コーヒーの種子から得られた、クロロゲン酸及びポリフェノールを主成分とするものをいう。)			アカネ科コーヒー (<i>Coffea arabica</i> LINNE) の種子より、温時アスコルビン酸又はクエン酸酸性水溶液で抽出して得られたものである。有効成分は、クロロゲン酸及びポリフェノールである。	酸化防止剤	Coffee bean extract	
228	ナリンギナーゼ	ナリンギナーゼ		※	酵素	Naringinase	
229	ナリンギン	ナリンギン		※	香料等	Naringin	
230	ニガークッタ (ニガークッタの分泌液から得られた、アミリンアセタート及びポリイソプレンを主成分とするものをいう。)			クワ科ニガークッタ (<i>Ficus platyphylla</i> DELILE.) の幹枝より得られたラテックスを、熱湯水で洗浄し、水溶成分を除去して得られたものである。主成分はアミリンアセタート及びポリイソプレレンである。	ガムベース	Niger gutta	
231	ニガヨモギ抽出物 (ニガヨモギの全草から得られた、セスキテルペンを主成分とするものをいう。)		ニガヨモギ	キク科ニガヨモギ (<i>Artemisia absinthium</i> LINNE) の全草より、水又は室温時エタノールで抽出して得られたものである。主成分はセスキテルペン (アブシンチン等) である。	香料等	Absinth extract	
232	ニッケル			⁵⁸ Ni, ⁶⁰ Ni, ⁶¹ Ni, ⁶² Ni, ⁶⁴ Ni	製造用剤	Nickel	
233	ニンジンカロテン (ニンジンの根から得られた、カロテンを主成分とするものをいう。)	キャロットカロチン キャロットカロテン ニンジンカロチン 抽出カロチン 抽出カロテン	カロチノイド カロチノイド色素 カロチン カロチン色素 カロチノイド カロチノイド色素 カロチン カロチン色素	※	強化剤 着色料	Carrot Carotene	
234	ばい煎コメヌカ抽出物 (米ぬかから得られた、マルトールを主成分とするものをいう。)			イネ科イネ (<i>Oryza sativa</i> LINNE) の米ぬかを脱脂し、ばい煎したもの、熱湯水で抽出後、温時エタノールでタンパク質を除去したものである。成分としてマルトールを含む。	製造用剤	Roasted rice bran extract	
235	ばい煎ダイズ抽出物 (ダイズの種子から得られた、マルトールを主成分とするものをいう。)			マメ科ダイズ (<i>Glycine max</i> MERRILL) の種子を脱脂し、ばい煎したものより、熱湯水で抽出後、温時エタノールでタンパク質を除去して得られたものである。成分としてマルトールを含む。	製造用剤	Roasted soybean extract	
236	パーオキシダーゼ	ペルオキシダーゼ		※	酵素	Peroxidase	
237	白金			¹⁹² Pt, ¹⁹⁴ Pt, ¹⁹⁵ Pt, ¹⁹⁶ Pt, ¹⁹⁸ Pt	製造用剤	Platinum	
238	パパイン			※	酵素	Papain	
239	パーム油カロテン (アブラヤシの果実から得られた、カロテンを主成分とするものをいう。)	パーム油カロチン 抽出カロチン 抽出カロテン	カロチノイド カロチノイド色素 カロチン カロチン色素 カロチノイド カロチノイド色素 カロチン カロチン色素	※	強化剤 着色料	Palm Oil Carotene	
240	パーライト			不溶性珪物性物質	※	製造用剤	Perlite
241	パラジウム			¹⁰² Pd, ¹⁰⁴ Pd, ¹⁰⁵ Pd, ¹⁰⁶ Pd, ¹⁰⁸ Pd, ¹¹⁰ Pd	製造用剤	Palladium	
242	パラフィンワックス	パラフィン		※	ガムベース 光沢剤	Paraffin Wax	
243	パンクレアチン			※	酵素	Pancreatin	
244	ヒアルロン酸		ムコ多糖	鶏冠より、微温時～温湯水、アルカリ性水溶液若しくは酸性水溶液で抽出し、エタノール若しくは含水エタノールで処理、若しくは酵素処理した後エタノール若しくは含水エタノールで処理し、精製して得られたもの、又は細菌 (<i>Streptococcus zooepidemicus</i>) の培養液を、冷時～温湯、除菌し、エタノール若しくは含水エタノールで処理し、精製して得られたものである。成分はヒアルロン酸である。	製造用剤	Hyaluronic acid	
245	微結晶セルロース (パルプから得られた、結晶セルロースを主成分とするものをいう。)	結晶セルロース	セルロース	※	製造用剤	Microcrystalline Cellulose	
246	微小繊維状セルロース (パルプ又は綿を微小繊維状にして得られた、セルロースを主成分とするものをいう。)		セルロース	※	増粘安定剤 製造用剤	Microfibrillated Cellulose	
247	L-ヒスチジン		ヒスチジン	※	調味料 強化剤	L-Histidine	
248	ビートレッド (ビートの根から得られた、イソベタニン及びベタニンを主成分とするものをいう。)	アカビート色素	アカビート 野菜色素	※	着色料	Beet Red	
249	L-ヒドロキシプロリン	L-オキシプロリン	オキシプロリン ヒドロキシプロリン	※	調味料 強化剤	L-Hydroxyproline	
250	ヒマワリ種子抽出物 (ヒマワリの種子から得られた、イソクロロゲン酸及びクロロゲン酸を主成分とするものをいう。)	ヒマワリエキス ヒマワリ種子エキス ヒマワリ抽出物	ヒマワリ種子	キク科ヒマワリ (<i>Helianthus annuus</i> LINNE) の種子又は種子の搾油相より、熱湯水又は含水エタノールで抽出して得られたものである。有効成分はイソクロロゲン酸及びクロロゲン酸である。	酸化防止剤	Sunflower seed extract	
251	ひる石		不溶性珪物性物質	鉱床より採掘したひる石を、1000℃で焼成し、洗浄した後、乾燥して得られたものである。主成分はケイ酸塩である。	製造用剤	Vermiculite	
252	ファーセララン (フルセラリアの全藻から得られた、多糖類を主成分とするものをいう。)			ススカケベニ科フルセラリア (<i>Furcellaria fastigiata</i> HUD.) の全藻より、熱湯水又はアルカリ性水溶液で抽出して得られたものである。主成分は多糖類である。	増粘安定剤	Furcellaran	
253	ファフィア色素 (ファフィアの培養液から得られた、アスタキサンチンを主成分とするものをいう。)		カロチノイド カロチノイド色素 カロチノイド カロチノイド色素	酵母 (<i>Phaffia rhodozyma</i> MILLER) の培養液より、室温時アセトン、エタノール、含水エタノール、ヘキサン又はこれらの混合液で抽出し、溶媒を除去して得られたものである。主色素はアスタキサンチンである。橙～赤色を呈する。	着色料	Phaffia colour	
254	フィシン	ファイシン		※	酵素	Ficin	
255	フィターゼ		ホスホヒドロラーゼ	※	酵素	Phytase	
256	フィチン酸 (米ぬか又はトウモロコシの種子から得られた、イノシトールヘキサリン酸を主成分とするものをいう。)			※	調味料 製造用剤	Phytic Acid	

既存添加物名簿収載品目リスト

番号	品名		簡略名又は類別名	基原・製法・本質	用途	備考
	名称	別名				
257	フィテン（抽出物） （米ぬか又はトウモロコシの種子から得られた、イノシトールヘキサリン酸マグネシウムを主成分とするものをいう。）		フィテン	イネ科イネ (<i>Oryza sativa</i> LINNE) の種子より得られた米ぬか又はイネ科トウモロコシ (<i>Zea mays</i> LINNE) の種子より、室温温水で抽出して得られたものである。主成分はイノシトールヘキサリン酸マグネシウムである。	製造用剤	Phytin (extract)
258	フェルラ酸			※	酸化防止剤	Ferulic Acid
259	フクロノリ抽出物 （フクロノリの全藻から得られた、多糖類を主成分とするものをいう。）		フクロノリ多糖類 フクロノリ多糖類 フクロノリ抽出物	※	増粘安定剤	Fukuronori Extract
260	ブタン			石油若しくは天然ガス成分中、n-ブタンの沸点付近の留分である。	製造用剤	Butane
261	ブドウ果皮色素 （アメリカブドウ又はブドウの果皮から得られた、アントシアニンを主成分とするものをいう。）	エノシアニン	アントシアニン アントシアニン色素 ブドウ色素	※	着色料	Grape Skin Color Grape Skin Extract
262	ブドウ果皮抽出物 （アメリカブドウ又はブドウの果皮から得られた、ポリフェノールを主成分とするものをいう。）			ブドウ科アメリカブドウ (<i>Vitis labrusca</i> LINNE) 又はブドウ科ブドウ (<i>Vitis vinifera</i> LINNE) のうち、生食用又は醸造用ブドウの甲州、シャルドネ若しくはリースリング種の果皮搾粕より、室温時～微温時エタノールで抽出して得られたものである。主成分はポリフェノールである。	製造用剤	Grape skin-derived substance
263	ブドウ種子抽出物 （アメリカブドウ又はブドウの種子から得られた、プロアントシアニジンを主成分とするものをいう。）		プロアントシアニジン	※	酸化防止剤 製造用剤	Grape Seed Extract
264	ブラジルカンゾウ抽出物 （ブラジルカンゾウの根から得られた、ペリアンドリンを主成分とするものをいう。）	ペリアンドリン	ブラジルカンゾウ	マメ科ブラジルカンゾウ (<i>Periandra dulcis</i> MART.) の根より、水で抽出したもので得られたものである。甘味成分はペリアンドリンである。	甘味料	Brazilian licorice extract
265	フルクトシルトランスフェラーゼ			※	酵素	Fructosyl Transferase
266	プルラーナーゼ		アミラーゼ カルボヒドラーゼ	※	酵素	Pullulanase
267	プルラン			※	増粘安定剤 製造用剤	Pullulan
268	プロテアーゼ	たん白分解酵素		※	酵素	Protease
269	プロパン			石油若しくは天然ガス成分中、n-プロパンの沸点付近の留分である。	製造用剤	Propane
270	プロポリス抽出物 （ミツバチの巣から得られた、フラボノイドを主成分とするものをいう。）			ミツバチ科ミツバチ (<i>Apis mellifera</i> LINNE, <i>Apis indica</i> RODOSKOWSKI) の巣より、エタノールで抽出して得られたものである。主成分はフラボノイドである。	酸化防止剤	Propolis extract
271	ブロメライン		ブロメリン	※	酵素	Bromelain
272	L-プロリン		プロリン	※	調味料 強化剤	L-Proline
273	分別レシチン （「植物レシチン」又は「卵黄レシチン」から得られた、スフィンゴミエリン、フォスファチジルイノシトール、フォスファチジルエタノールアミン及びフォスファチジルコリンを主成分とするものをいう。）	レシチン分別物 レシチン		「植物レシチン」又は「卵黄レシチン」より、室温時～温時メタノール、エタノール、含水エタノール、イソプロピルアルコール、アセトン、ヘキサン又は酢酸エチルで抽出して得られたものである。主成分は、フォスファチジルコリン、フォスファチジルエタノールアミン、フォスファチジルイノシトール、スフィンゴミエリンである。	乳化剤	Fractionated lecithin Cephalin Lipoinositol
274	粉末セルロース （バルブを分解して得られた、セルロースを主成分とするものをいう。ただし、「微結晶セルロース」を除く。）		セルロース	※	製造用剤	Powdered Cellulose
275	粉末モミガラ （イネのもみ殻から得られた、セルロースを主成分とするものをいう。）			イネ科イネ (<i>Oryza sativa</i> LINNE) のもみ殻を、微粉砕して得られたものである。主成分はセルロースである。	ガムベース	Powdered rice hulls
276	ペカンナッツ色素 （ピーカンの果皮又は渋皮から得られた、フラボノイドを主成分とするものをいう。）	ピーカンナッツ色素	フラボノイド フラボノイド色素	クルミ科ピーカン (<i>Carya pecan</i> ENGL. et GRAEBN.) の果皮又は渋皮より、熱時水若しくは含水エタノールで抽出して得られたもの又は熱時酸性水溶液で抽出し、中和して得られたものである。主色素はフラボノイドである。褐色を呈する。	着色料	Pecan nut colour
277	ヘキサン			※	製造用剤	Hexane
278	ペクチナーゼ		カルボヒドラーゼ	※	酵素	Pectinase
279	ペクチン			※	増粘安定剤	Pectin
280	ペクチン分解物 （「ペクチン」から得られた、ガラクトuron酸を主成分とするものをいう。）		分解ペクチン	※	保存料	Pectin Digests
281	ヘスペリジナーゼ			※	酵素	Hesperidinase
282	ヘスペリジン	ビタミンP		※	強化剤	Hesperidin
283	ベタイン			※	調味料	Betaine
284	ベニコウジ黄色素 （ベニコウジカビの培養液から得られた、キサントモナシン類を主成分とするものをいう。）	モナスカス黄色素	紅麹 紅麹色素 モナスカス モナスカス色素	※	着色料	Monascus Yellow
285	ベニコウジ色素 （ベニコウジカビの培養液から得られた、アンカフラビン及びモナスコルプリンを主成分とするものをいう。）	モナスカス色素	紅麹 モナスカス	※	着色料	Monascus Color
286	ベニバナ赤色素 （ベニバナの花から得られた、カルタミンを主成分とするものをいう。）	カーサマス赤色素	フラボノイド フラボノイド色素 紅花赤 紅花色素	※	着色料	Carthamus Red
287	ベニバナ黄色素 （ベニバナの花から得られた、サフライエロー類を主成分とするものをいう。）	カーサマス黄色素	フラボノイド フラボノイド色素 紅花黄 紅花色素	※	着色料	Carthamus Yellow
288	ベネズエラチクル （ベネズエラチクルの分泌液から得られた、アミリンアセタート及びポリイソブレンを主成分とするものをいう。）	カプーレ		アカテツ科ベネズエラチクル (<i>Manilkara williamsii</i> STANDL.) の幹枝より得られるラテックスを、脱水したもので得られたものである。主成分はアミリンアセタート及びポリイソブレンである。	ガムベース	Venezuelan chicle

既存添加物名簿収載品目リスト

番号	品名		簡略名又は類別名	基原・製法・本質	用途	備考
	名称	別名				
289	ペプシン			※	酵素	Pepsin
290	ヘプタン			石油成分中、n-ヘプタンの沸点付近の留分である。	製造用剤	Heptane
291	ペプチダーゼ			※	酵素	Peptidase
292	ヘマトコッカス藻色素 (ヘマトコッカスの全藻から得られた、アスタキサンチンを主成分とするものをいう。)		カロチノイド カロチノイド色素 カロテノイド カロテノイド色素	※	着色料	Haematococcus Algae Color
293	ヘミセルラーゼ	ペントサナーゼ	カルボヒドラーゼ	※	酵素	Hemicellulase
294	ヘム鉄			※	強化剤	Heme Iron
295	ヘリウム			⁴ He	製造用剤	Helium
296	ペントナイト		不溶性鉱物性物質	※	製造用剤	Bentonite
297	ホスホジエステラーゼ			※	酵素	Phosphodiesterase
298	ホスホリパーゼ	ホスファチダーゼ レシチナーゼ		※	酵素	Phospholipase
299	没食子酸			ウルシ科ヌルデ (<i>Rhus javanica</i> LINNE) に発生する五倍子、ブナ科 (<i>Quercus infectoria</i> OIIV.) に発生する没食子より、水、エタノール又は有機溶剤で抽出したタンニン、又はマメ科タラ (<i>Caesalpinia spinosa</i> (MOLINA) KUNTZE) の実の莢より、温時水で抽出したタンニンを、アルカリ又は酵素 (タンナーゼ) により加水分解して得られたものである。成分は没食子酸である。	酸化防止剤	Gallic acid
300	ホホバロウ (ホホバの果実から得られた、イコセン酸イコセニルを主成分とするものをいう。)	ホホバワックス		ツゲ科ホホバ (<i>Simmondsia californica</i> NUTT.) の果実より採油したホホバ脂より、分離して得られた高融点ロウ物質である。主成分はイコセン酸イコセニルである。	ガムベース	Jojoba wax
301	ポリフェノールオキシダーゼ	フェノラーゼ		※	酵素	Polyphenol Oxidase
302	ε-ポリリジン	ε-ポリリジン	ポリリジン	※	保存料	ε-Polylysine
303	マイクロクリスタリンワックス		マイクロクリスタリンワックス	※	ガムベース 光沢剤	Microcrystalline Wax
304	マクロホモプシスガム (マクロホモプシスの培養液から得られた、多糖類を主成分とするものをいう。)	マクロホモプシス多糖類		※	増粘安定剤	Macrophomopsis Gum
305	マステック (ヨウニューウコウの分泌液から得られた、マステカジエノン酸を主成分とするものをいう。)			ウルシ科ヨウニューウコウ (<i>Pistacia lentiscus</i> LINNE) の分泌液より、低沸点部を蒸留により除去し、熱時エタノールで抽出し、エタノールを留去して得られたものである。主構成成分はマステカジエノン酸である。	ガムベース	Mastic gum
306	マッサランドバチョコレート (マッサランドバチョコレートの分泌液から得られた、アミリンアセタート及びポリイソブレンを主成分とするものをいう。)			アカテツ科マッサランドバチョコレート (<i>Manilkara solimoesensis</i> GILLY.) の幹枝より得られたラテックスを、熱時水で洗浄し、水溶成分を除去して得られたものである。主成分はアミリンアセタート及びポリイソブレンである。	ガムベース	Massaranduba chocolate
307	マッサランドババラタ (マッサランドババラタの分泌液から得られた、アミリンアセタート及びポリイソブレンを主成分とするものをいう。)			アカテツ科マッサランドババラタ (<i>Manilkara huberi</i> (DUCKE) CHEVAL.) の幹枝より得られたラテックスを、熱時水で洗浄し、水溶成分を除去して得られたものである。主成分はアミリンアセタート及びポリイソブレンである。	ガムベース	Massaranduba balata
308	マリーゴールド色素 (マリーゴールドの花から得られた、キサントフィルを主成分とするものをいう。)		カロチノイド カロチノイド色素 カロテノイド カロテノイド色素 マリーゴールド	※	着色料	Marigold Color
309	マルトースホスホリラーゼ			※	酵素	Maltose Phosphorylase
310	マルトリオヒドローラーゼ	G3生成酵素	アマラーゼ カルボヒドラーゼ	※	酵素	Maltotriohydrolase
311	未焼成カルシウム (貝殻、真珠の真珠層、造礁サンゴ、骨又は卵殻を乾燥して得られた、カルシウム塩を主成分とするものをいう。)		未焼成Ca		強化剤	Non-calcinated calcium
	貝殻未焼成カルシウム		貝カルシウム 貝Ca	貝殻を、殺菌、乾燥し、粉末にして得られたものである。主成分は炭酸カルシウムである。		Non-calcinated shell calcium
	骨未焼成カルシウム		骨カルシウム 骨Ca	獣骨又は魚骨を、殺菌、乾燥し、粉末にして得られたものである。主成分はリン酸カルシウムである。		Non-calcinated bone calcium
	サンゴ未焼成カルシウム	コーラルカルシウム サンゴカルシウム	コーラルCa サンゴCa	※		Non-calcinated Coral Calcium
	真珠層未焼成カルシウム		真珠層カルシウム 真珠層Ca	ウグイスガイ科アコヤガイ (<i>Pinctada fucata</i>) から得られる真珠の核を除いた真珠層を、殺菌、乾燥し、粉末にして得られたものである。主成分は炭酸カルシウムである。		Non-calcinated mother-of-pearl layer calcium
	卵殻未焼成カルシウム		卵殻カルシウム 卵殻Ca	卵殻を、殺菌、乾燥し、粉末にして得られたものである。主成分は炭酸カルシウムである。		Non-calcinated eggshell calcium
312	ミックストコフェロール (植物性油脂から得られた、d-α-トコフェロール、d-β-トコフェロール、d-γ-トコフェロール及びd-δ-トコフェロールを主成分とするものをいう。)	ミックスビタミンE	抽出V.E トコフェロール ビタミンE V.E ミックスV.E 抽出トコフェロール 抽出ビタミンE	※	酸化防止剤 強化剤	Mixed Tocopherols
313	ミツロウ (ミツバチの巣から得られた、パルミチン酸ミリシルを主成分とするものをいう。)	オウロウ ビースワックス ペースワックス		※	ガムベース 光沢剤	Bees Wax
314	ミルラ (ポツヤクの分泌液から抽出して得られたものをいう。)	ミル		カンラン科ポツヤク (<i>Commiphora mukul</i> ENGL.) の分泌液より、低沸点部を蒸留により除去し、室温時エタノールで抽出し、エタノールを留去して得られたものである。成分としてコミホールを含む。	ガムベース	Myrrh
315	ムラサキイモ色素 (サツマイモの塊根から得られた、シアニンシアルグルコシド及びペオニジンシアルグルコシドを主成分とするものをいう。)		アントシアニン アントシアニン色素 野菜色素	※	着色料	Purple Sweet Potato Color

既存添加物名簿収載品目リスト

番号	品名	簡略名又は類別別名	基原・製法・本質	用途	備考
316	ムラサキトウモロコシ色素 (トウモロコシの種子から得られた、シアニジン-ニ-グルコシドを主成分とするものをいう。)	ムラサキコーン色素	アントシアニン	※	着色料 Purple Corn Color
317	ムラサキヤマイモ色素 (ヤマイモの塊根から得られた、シアニジンアシルグルコシドを主成分とするものをいう。)		アントシアニン アントシアニン色素 ムラサキヤマイモ 野菜色素	※	着色料 Purple yam colour
318	ムラミダーゼ			※	酵素 Muramidase
319	メナキノン(抽出物) (アルトバクターの培養液から得られた、メナキノン-四を主成分とするものをいう。)	ビタミンK ₂ (抽出物)	ビタミンK ₂ ビタミンK V.K ₂ V.K メナキノン	※	強化剤 Menaquinone (Extract) Vitamin K2 (Extract)
320	メバロン酸				製造用剤 Mevalonic acid
321	メラロイカ精油 (メラロイカの葉から得られた、精油を主成分とするものをいう。)				酸化防止剤 Melaleuca oil
322	モウソウチク乾留物 (モウソウチクの茎を乾留して得られたものをいう。)		竹乾留物		製造用剤 Mousouchiku dry distillate
323	モウソウチク抽出物 (モウソウチクの茎の表皮から得られた、2,6-ジメトキシ-1,4-ベンゾキノンを主成分とするものをいう。)				製造用剤 Mousouchiku extract
324	木材チップ (ハンパミ又はブナの幹枝を粉砕して得られたものをいう。)	シュペーネ			製造用剤 Wood chip
325	木炭 (竹材又は木材を炭化して得られたものをいう。)				製造用剤 Charcoal
326	モクロウ (ハゼノキの果実から得られた、グリセリンパルミタートを主成分とするものをいう。)	日本ロウ	植物ワックス		カムベース Japan wax
327	木灰 (竹材又は木材を灰化して得られたものをいう。)				製造用剤 Timber ash
328	木灰抽出物 (「木灰」から抽出して得られたものをいう。)				製造用剤 Timber ash extract
329	モモ樹脂 (モモの分泌液から得られた、多糖類を主成分とするものをいう。)				増粘安定剤 Peach gum
330	ヤマモモ抽出物 (ヤマモモの果実、樹皮又は葉から抽出して得られたものをいう。)			※	酸化防止剤 Chinese Bayberry Extract
331	ユッカフォーム抽出物 (ユッカアラボレセンス又はユッカシジゲラの全草から得られた、サポニンを主成分とするものをいう。)	ユッカ抽出物	ユッカフォーム ユッカ・フォーム	※	乳化剤 製造用剤 Yucca Foam Extract
332	ラカンカ抽出物 (ラカンカの果実から得られた、モグロシド類を主成分とするものをいう。)	ラカンカエキス	ラカンカ	※	甘味料 Luohanguo Extract
333	ラクトパーオキシダーゼ			※	酵素 Lactoperoxidase
334	ラクトフェリン濃縮物 (ほ乳類の乳から得られた、ラクトフェリンを主成分とするものをいう。)		ラクトフェリン	※	製造用剤 Lactoferrin Concentrates
335	ラック色素 (ラックカイガラムシの分泌液から得られた、ラッカイン酸類を主成分とするものをいう。)	ラッカイン酸	ラック	※	着色料 Lac Color
336	ラノリン (ヒツジの毛に付着するろう様物質から得られた、高級アルコールとα-ヒドロキシ酸のエステルを主成分とするものをいう。)	羊毛ロウ		※	カムベース 光沢剤 Lanolin
337	ラムザンガム (アルカリゲネスの培養液から得られた、多糖類を主成分とするものをいう。)	ラムザン多糖類	ラムザン	※	増粘安定剤 Rhamsan Gum
338	L-ラムノース		ラムノース	※	甘味料 L-Rhamnose
339	卵黄レシチン (卵黄から得られた、レシチンを主成分とするものをいう。)	レシチン			乳化剤 Yolk lecithin
340	L-リシン	L-リジン	リシン リジン	※	調味料 強化剤 L-Lysine
341	リゾチーム	卵白リゾチーム		※	酵素 Lysozyme
342	リパーゼ	脂肪分解酵素	エステラーゼ	※	酵素 Lipase
343	リポキシゲナーゼ	リポキシダーゼ		※	酵素 Lipoxygenase
344	D-リボース		リボース	※	甘味料 D-Ribose
345	流動パラフィン	ミネラルオイルホワイ	パラフィン	※	製造用剤 Liquid Paraffin

既存添加物名簿収載品目リスト

番号	品名		簡略名又は類別名	基原・製法・本質	用途	備考
	名称	別名				
346	リンターセルローズ (ワタの単毛から得られた、セルローズを主成分とするものをいう。)		セルローズ	アオイ科ワタ (<i>Gossypium hirsutum</i> LINNE) の実の単毛を、精製して得られたものである。主成分はセルローズである。	製造用剤	Linter cellulose
347	ルチン酵素分解物 (「ルチン(抽出物)」から得られた、イソクエルシトリンを主成分とするものをいう。)		イソクエルシトリン	※	酸化防止剤	Enzymatically Decomposed Rutin
348	ルチン(抽出物) (アズキの全草、エンジュのつぼみ若しくは花又はソバの全草から得られた、ルチンを主成分とするものをいう。)		フラボノイド ルチン		酸化防止剤 着色料	Rutin (extract)
	エンジュ抽出物			※		Enju Extract Japanese Pagoda Tree Extract
	アズキ全草抽出物			マメ科アズキ (<i>Azuki angularis</i> OHWI) の全草より、水又はエタノールで抽出して得られたものである。主成分はルチンである。		Azuki extract
	ソバ全草抽出物			タデ科ソバ (<i>Fagopyrum esculentum</i> MOENCH) の全草より、水又はエタノールで抽出して得られたものである。主成分はルチンである。		Buckwheat extract
349	ルテニウム			⁹⁶ Ru, ⁹⁸ Ru, ⁹⁹ Ru, ¹⁰⁰ Ru, ¹⁰¹ Ru, ¹⁰² Ru, ¹⁰⁴ Ru	製造用剤	Ruthenium
350	レイシ抽出物 (マンネンタケの菌糸体若しくは子実体又はその培養液から抽出して得られたものをいう。)	マンネンタケ抽出物	レイシ	サルノコシカケ目マンネンタケ (<i>Ganoderma lucidum</i> KARST.) の菌糸体若しくは子実体、又はその培養液より、水、エタノール又は二酸化炭素で抽出して得られたものである。	苦味料等	Mannentake extract
351	レッチュデバカ (レッチュデバカの分泌液から得られた、アミリンエステルを主成分とするものをいう。)			クワ科レッチュデバカ (<i>Brosimum utile</i> (H. B. K) PITT.) の幹枝から得られたラテックスを、熱湯で洗浄し、水溶成分を除去して得られたものである。主成分はアミリンエステルである。	ガムベース	Leche de vaca
352	レンネット	キモシン レンニン		※	酵素	Rennet
353	L-ロイシン		ロイシン	※	調味料 強化剤	L-Leucine
354	ログウッド色素 (ログウッドの心材から得られた、ヘマトキシリンを主成分とするものをいう。)			マメ科ログウッド (<i>Haematoxylon campechianum</i>) の心材より、熱湯で抽出して得られたものである。主色素はヘマトキシリンである。黒褐色を呈する。	着色料	Logwood colour
355	ロシディンハ (ロシディンハの分泌液から得られた、アミリンアセタート及びポリイソブレンを主成分とするものをいう。)	ロジディンハ		アカテツ科シデロキシロン属 (<i>Sideroxylon</i>) の幹枝より得られたラテックスを、脱水したものとより得られたものである。主成分はアミリンアセタート及びポリイソブレンである。	ガムベース	Rosidinha
356	ロシン (マツの分泌液から得られた、アビエチン酸を主成分とするものをいう。)	ロジン		マツ科マツ (<i>Pinus palustris</i> MILL.) の樹皮の分泌液より、低沸点部を蒸留により除去して得られたものである。主構成成分はアビエチン酸である。	ガムベース	Rosin
357	ローズマリー抽出物 (マンネンロウの葉又は花から得られた、カルノシン酸、カルノソール及びロスマノールを主成分とするものをいう。)	マンネンロウ抽出物		シソ科マンネンロウ (<i>Rosmarinus officinalis</i> LINNE) の葉又は花より、二酸化炭素、温時～熱時含水エタノール若しくはエタノールで抽出して得られたもの、又は温時～熱時ヘキサン、メタノール若しくは含水メタノールで抽出し、溶媒を除去して得られたものである。有効成分は、フェノール性ジテルペノイド(ロスマノール、カルノソール及びカルノシン酸等)である。	酸化防止剤	Rosemary extract

※食品、添加物等の規格基準(昭和34年厚生省告示第370号)第2添加物の部D成分規格・保存基準各条の規定に従う。

なお、組換えDNA技術によって得られた生物を利用して製造された添加物の場合は、厚生労働大臣が定める安全性審査の手続を経た旨が公表されていなければならない。